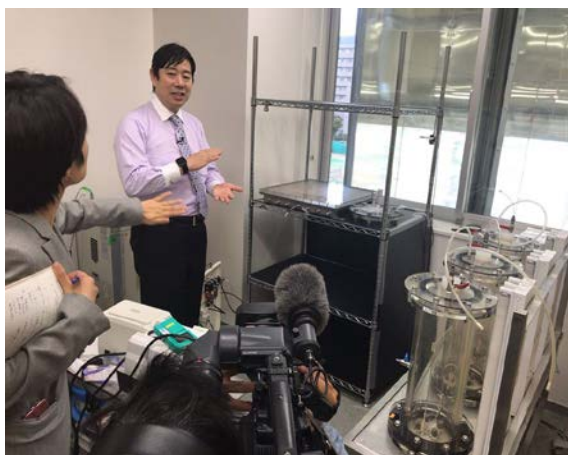


人工光合成研究センターがフジテレビ FNN プライムニュースデイズにて紹介

2018年12月13日（木）フジテレビ系列FNNプライムニュースデイズにて、特集「世界が注目！ 温室効果ガスを削減する夢の技術 日本発の「人工光合成」」が全国放映され、人工光合成研究センター内で飯田ホールディングス株式会社との共同研究部門で進めている研究内容が紹介されました（共同研究部門での研究内容の詳細は2017年7月18日発行のニューズレター2巻4号をご覧ください）。11月中旬、センター内での研究内容や将来的像などインタビューを交えた約3時間の取材撮影でした。

放送では共同研究部門で進めている「人工光合成ハウス」の概要や2019年から沖縄・宮古島にて実証実験で利用するために開発している太陽エネルギーと光触媒を利用した二酸化炭素をギ酸還元する人工光合成装置が紹介されました。また、光触媒の先駆者でノーベル化学賞候補者の東京大学藤嶋昭名誉教授と天尾所長との過去のエピソードも紹介されました。

人工光合成研究センターが全国テレビニュースで取り上げられ、絶好の広報活動になりました。



取材を受ける天尾豊所長

2018年度第3回人工光合成研究拠点講演会開催

2018年12月14日（金）に、人工光合成研究拠点第3

回講演会が触媒学会生体関連触媒研究会共催のもと開催されました。今回の講演では、産業技術総合研究所創エネルギー研究部門の兼賀量一博士を講師としてお招きしました。兼賀先生は「CO₂とギ酸の相互変換による水素貯蔵システムに向けた触媒開発」と題して、新規アミド系触媒設計について講演されました。

産業技術総合研究所では、常温常圧の水中で水素ガスを二酸化炭素と反応させてギ酸を生成するとともに、ギ酸を分解して固体高分子形燃料電池などに適した一酸化炭素を含まない高圧水素を供給できる高効率二酸化炭素/ギ酸の相互変換触媒を開発してきました。兼賀博士は、配位子の緻密な構造制御によって、水素貯蔵と水素放出の両特性を併せ持つ優れた高性能触媒を設計する研究指針について詳しく説明されました。



兼賀量一博士

講演会には学生、教員を含めて多数の参加があり、活発な講演会となりました。このような講演会を今後も定期的で開催する予定です。人工光合成研究拠点では、当研究センターに関するお知らせや講演会開催の案内など、最新情報をホームページやFacebookに掲載しています。是非チェックしてください。

人工光合成研究拠点 ニュースレター
第3巻・第10号平成31年1月23日発行
発行責任者：天尾 豊（大阪市立大学人工光合成研究センター所長）
編集責任者：吉田朋子（同副所長）
<http://recap.osaka-cu.ac.jp/ap-coe/index.html>